船舶事故等調査報告書（軽微）

１	船舶事故	計　66 件
２	船舶インシデント	計　 8 件
	合　　計	74 件

平成２２年４月２３日

運 輸 安 全 委 員 会

船舶事故等調査報告書（軽微）一覧

（函館事務所）

1　引船さくら船体損傷

2　押船第六義経丸運航不能（機関損傷）

3　巡視船えとも実習船北鳳丸衝突

（仙台事務所）

4　漁船ひよし丸転覆

5　モーターボートマスグロリア３セイ乗揚

6　漁船第一榮丸運航阻害

7　漁船協和丸火災

8　貨物船新大誠定置網損傷

9　漁船第三東洋丸遊漁船㊫長進丸衝突

（横浜事務所）

10　漁船莉奈丸船種船名不詳衝突

11　貨物船 PAN RISE 衝突（岸壁）

12　モーターボートゴールドアイズ転覆

13　漁船第二義宝丸モーターボート FUJI Ⅱ衝突

14　漁船新宝丸転覆

15　監視取締艇すぴかモーターボートゆうゆう３号衝突

16　監視取締艇かぺら水上オートバイ B-１oN 衝突

17　引船やまふじ被引台船６０－２漁船勝成丸衝突

18　漁船優聖丸遊漁船第十八海洋丸衝突

19　水上オートバイ MATSUDA-１水上オートバイランドシャークⅡ衝突

20　漁船ひで丸転覆

21　押船第二泰正号乗揚

22　砂利運搬船第三和寿丸乗揚

23　モーターボート LEAPⅡ定置網損傷

24　漁船第一勝丸転覆

25　漁船第七新生丸沈没

26　漁船山佐丸浸水

27　モーターボートペルシャ乗揚

（神戸事務所）

28　旅客船ニューあしずり衝突（岸壁）

29　押船第八松陽丸被押台船第五松陽号乗揚

30　作業船第七松陽丸衝突（消波ブロック）

31　砂利採取運搬船第十共栄丸乗揚

32　漁船金比羅丸モーターボート白影２号衝突

33　引船第二十三きさ丸被引台船ＳＫ－１００６乗揚

34　油タンカー第二ひかり丸作業船森長７号衝突

（広島事務所）

35　貨物船第十八陽周丸座洲

36　引船第三豪丸モーターボート龍神丸衝突

37　貨物船 YUAN QIAO 乗揚

38　モーターボート木野丸衝突（かき養殖施設）

39　貨物船第三喜代丸乗揚

40　漁船哲勝丸乗揚

41　漁船第五十二大慶丸運航不能（機関損傷）

※下線付き番号はインシデント

42　漁船金比羅丸漁船豊福丸衝突
43　押船第五十八住若丸被押はしけ東鶴乗揚
44　油送船マリン１号乗揚
45　引船愛船丸乗揚
46　引船さかえ丸座洲
47　漁船第三春日丸漁船清幸丸衝突
48　押船日新被押はしけ新菱１号漁船蛭子丸衝突
49　貨物船第八末広丸運航阻害
50　漁船正晃丸釣船瀬戸内丸衝突
51　貨物船第十大泰丸モーターボート西輝丸衝突
52　押船第三清水丸被押はしけ第二十四清水丸衝突（かき養殖施設）
53　貨物船 CONFIDENCE 衝突（防波堤）
54　貨物船第十二海幸丸遊漁船俊栄丸衝突
55　巡視艇からたち釣船清雲丸衝突
56　漁船第六十六満吉丸漁船英正丸衝突
57　瀬渡船第五幸丸運航不能（舵故障）
58　旅客船びさん２運航不能（機関損傷）

（門司事務所）

59　引船竜山丸被引起重機船不退転乗揚
60　貨物船 EVER UNION 漁船第五慶漁丸衝突
61　漁船右豊丸乗揚
62　漁船第二大恵丸漁船秀丸衝突
63　漁船第七日豊丸漁船政江丸衝突
64　貨物船第二十五蛭子丸漁船漁徳丸衝突

（長崎事務所）

65　押船第五順徳丸被押クレーン付バージ順徳丸乗揚
66　押船第三十八かいこう丸被押作業船第八かいこう乗揚
67　貨物船信洋丸乗揚
68　漁船喜久丸乗揚
69　警備艇かみごとう施設損傷（定置網）
70　油送船上宝丸衝突（岸壁）
71　揚土船第１８土佐号乗組員負傷
72　鮮魚運搬船 ZHE DAI YU 02316 衝突（防波堤）

（那覇事務所）

73　貨物船 OCEAN BLOSSOM 乗揚
74　貨物船ふじとよ衝突（岸壁）

※下線付き番号はインシデント

船舶事故等調査報告書

平成２２年３月２５日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	２００９広第２７２号
事故等種類	運航不能（機関損傷）
発生日時	平成２１年９月２５日　１３時３５分ごろ
発生場所	香川県丸亀市丸亀港　丸亀港蓬莱町防波堤灯台から真方位１５７°１，７２０ｍ付近（概位　北緯３４°１７．８′　東経１３３°４７．４′）
事故等調査の経過	平成２１年１０月１３日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	旅客船　びさん２、２９９トン １２９６０９、備讃フェリー株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海） 機関長、三級海技士（機関）
死傷者等	なし
損傷	主機付高弾性ゴム継手の防振ゴム８個全数が破断
事故等の経過	本船は、船長ほか３人が乗り組み、旅客２０人トラック２台を載せ、１３時３０分ごろ丸亀港を丸亀市広島の江の浦港に向けて出港し、丸亀港内を航行中、１３時３５分ごろ、後進微速から前進としたとき、推進力がなくなり停止した。 本船は、タグボートにえい航されて出港岸壁に着岸した。
気象・海象	気象：天気　晴れ、風向　北北西、風力　３
分析	乗組員等の関与：あり 船体・機関等の関与：あり 気象・海象の関与：なし 判明した事項の解析： ①　防振ゴムは就航以来２１年間交換されずに使用されていた。 ②　防振ゴムは、油が付着しておらず、運転中異臭はしなかった。 ③　防振ゴムは劣化していた。 以上のことから、防振ゴムは、経年劣化により破断したもので、整備が適切に行われていなかった可能性があると考えられる。
原因	本インシデントは、本船が丸亀港内を航行中、高弾性ゴム継手の防振ゴムが経年劣化により破断したため、推進力がなくなったことにより発生したものと考えられる。
備考	船舶所有者は、取扱説明書に従い、防振ゴムに異常がない場合でも、安全を考慮して使用年数６年、運転時間３６，０００時間で交換することとした。